

FLORA KANAGAWA

Jun. 7. 2011 No.72

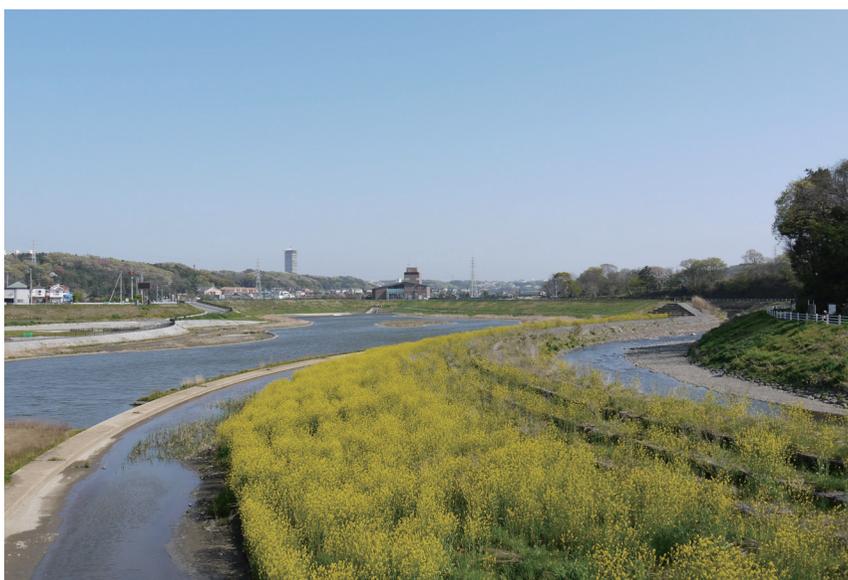
神奈川県植物誌調査会ニュース第 72 号

〒 250-0031 小田原市入生田 499 神奈川県立生命の星・地球博物館内
神奈川県植物誌調査会

TEL 0465-21-1515 ・ FAX 0465-23-8846

<http://nh.kanagawa-museum.jp/~kana-syoku/>

e-mail kana-syoku@nh.kanagawa-museum.jp



越流堤のカラシナ（下飯田遊水地 2009 年 4 月 10 日 本田昌幸撮影）。左側が遊水池で、右側が境川。本文 868 頁参照。

目次

佐々木シゲ子ほか：神奈川県立境川遊水地公園の花ごよみ調査	868
長谷川義人：小原 敬先生の訃報と思い出	870
勝山輝男：環境省レッドリスト改訂神奈川県調査について	872
三樹和博：ササ類情報募集	872
事務局：2011 年度総会の報告	873
編集後記	874

神奈川県立境川遊水地公園の花ごよみ調査

(佐々木シゲ子・野津信子・
埜村恵美子・和田良子)

2008年8月から2年間をかけて神奈川県立境川遊水地公園の花ごよみ調査を行った。ここではその過程で記録された横浜市新産植物やレッドデータ植物などの特記すべき植物について報告する。

遊水地の目的が河川からの洪水を一時的に貯留することであるため、越流堤では定期的に草刈が行われ、流されてきて育った木は大きくなる前に根元から伐採される。境川から園芸種や野菜類の種子が流れ込んだと思われ、越流堤では、春(3月～4月)にはカラシナが一面に咲き(表紙写真参照)、夏～秋にかけてはスイカ(図1)やカボチャ、ミニトマトなどが花をつけ、小さな実をみのらせる。カラシナの花が終わる5月末から6、7月には越流堤を含め公園内の土手にはナヨクサフジやクスダマツメクサが多く咲く。公園内には湧水とその周辺の湿地が広範囲にあり、ヒメコウガイゼキショウ(イグサ科)、ウキヤガラ、コウキヤガラ、カンガレイ、マツカサススキ、ミコシガヤ、メリケンガヤツリ(以上カヤツリグサ科)、コガマ、ヒメガマ(以上ガマ科)、イヌコリヤナギ、ウンリュウヤナギ、オオタチヤナギ、オノエヤナギ、カワヤナギ、ジャヤナギ、タチヤナギ、ネコヤナギ(以上ヤナギ科)、タコノアシ(ユキノシタ科)、カワヂシャ(ゴマノハグサ科)、ノジシャ、シロノジシャ(以上オミナエシ科)などが多くみられる。また、県内ではあまりみられないコバナキジムシロが確認された。

調査方法

○調査員：佐々木シゲ子・野津信子・埜村恵美子・和田良子

○調査場所：県立境川遊水地公園(図2)。

境川(県北部の城山湖付近を水源として江ノ島付近で相模湾に注ぐ2級河川)の洪水被害を軽減するために造成された遊水地で、横浜市戸塚区、泉区、藤沢市にまたがり、それぞれ下飯田遊水地、俣野遊水地、今田遊水地の3つの遊水地から構成されている(藤沢土木事務所作成の公園パンフレットより)。このうち下飯田遊水地(横浜市泉区)、俣野遊水地(横浜市戸塚区)で花ごよみ調査を実施した。

○調査期間：2008年8月から原則月1回のペースで2年間。ただし1月、2月、8月はお休みとした。なお、本調査地では、2003年3月～11月にも花ごよみ調査(月1回)を行っていたが、公園の改修工事が始まり立ち入りできなくなったために中止とした経

緯があり、本調査はそれを完結させる意味もある。

○記録方法：観察できた植物名の記録とその植物の開花状況の記録(△：つぼみ、○：開花、×：実、※：イグサ科、イネ科およびカヤツリグサ科の開花～実)した。なお、『神植誌01』での未記録種や希少種などを中心に標本を作製した。

結果

新産種(横浜市新産：☆、神奈川県新産：★)、帰化種(→；国内帰化も含む)などの扱いは『神植誌01』に従い、レッドデータ植物は勝山ほか(2006)に準拠した。また、『神植誌01』に帰化種として掲載されていない外来種は逸出種(⇒)とした。

○本報で報告(13種)

標本のデータは次報(佐々木ほか、印刷中；本誌73号)に掲載し、ここでは標本番号のみを記した。

ヤマアゼスゲ *Carex heterolepis* Bunge (KPM-NA0164926)

ヒメコウガイゼキショウ *Juncus bufonius* L. (KPM-NA0164924)

★オオタチヤナギ *Salix pierotii* Miq. (♂株：KPM-NA0165614, ♀株：KPM-NA0165615)

☆ハマナデシコ *Dianthus japonicus* Thunb. (KPM-MA0164907)

→コバナキジムシロ *Potentilla amurensis* Maxim. (KPM-NC0162773)

★→マルバフウロ *Geranium rotundifolium* L. (KPM-NA0162796)

☆→タチアオイ *Alcea rosea* L. (KPM-NA0164912, KPM-NA0164921)

☆⇒アメリカフヨウ *Hibiscus moscheutos* L. (KPM-NA0164934)

→コメバミソハギ *Lythrum hyssopifolia* L. (KPM-NA0161327)

☆⇒ヒメイワダレソウ *Lippia repens* Spreng. (KPM-NA0161326, KPM-NA0164910)

☆⇒モクシュンギク(キバナマーガレット) *Argyranthemum frutescens* (L.) Sch.Bip (KPM-NA0164913)

☆⇒ダールベルグデージー *Thymophylla tenuiloba* (DC.) Small (KPM-NA0164905)

→テンニンギク *Gaillardia pulchella* Foug. (KPM-NA0163665)

○野津ほか(2009；本誌68号)で報告(2種)

☆⇒キダチコマツナギ(チュウゴクコマツナギ) *Indigofera* aff. *pseudotinctoria* Matsum.

☆→チャボタイゲキ *Euphorbia peplus* L.

○和田ほか（2003；本誌 56 号）で報告（3 種）

和田ほか（2003）では採集標本のデータを示していないので掲載した。これらの種は今回の調査では再確認できなかった。

→ヒロハウラジロヨモギ *Artemisia koidzumii* Nakai

標本：戸塚区俣野町境川遊水地 和田良子ほか 2003.11.22 YCM-427672；和田良子ほか 2003.06.21 KPM-NA0162693.

★ルリハッカ *Amethystea caerulea* L.

標本：戸塚区俣野町境川遊水地 野津信子ほか 2003.8.30 YCB-427668；和田良子ほか 2003.8.30 KPM-NA0123776.

☆カワラサイコ *Potentilla chinensis* Ser.

標本：戸塚区俣野町境川遊水地 埜村恵美子ほか 2003.07.25 KPM-NA0150950, 泉区下飯田町境川遊水地 埜村恵美子ほか 2004.6.6 YCB-428183.

※カワラサイコは一部移植保護していたが、2010 年 12 月に植え戻した。

○レッドデータ植物（6 種）

期間中に記録されたレッドデータ植物は以下の通りである。

イヌカタヒバ *Selaginella moellendorffii* Hieron. 国 絶滅危惧（VU）

標本：泉区俣野町境川遊水地 野津信子ほか 2010.7.6 KPM-NA0164927.

ヒメコウガイゼキショウ *Juncus bufonius* L. 県 絶滅危惧 I A 類（KPM-NA0164924）

タコノアシ *Penthorum chinense* Pursh 国 絶滅危惧 II 類

標本：泉区下飯田町境川遊水地 野津信子ほか 2008.10.8 KPM-NA0161871.

ミズキンバイ *Ludwigia peploides* (Kunth) P.H.Raven subsp. *stipulacea* (Ohwi) P.H.Raven 県 絶滅危惧 I B 類 国絶滅危惧 I A 類（公園改修工事前に柏尾川から移植）

ミゾコウジュ *Salvia plebeia* R.Br. 国 準絶滅危惧（NT）

標本：泉区下飯田町境川遊水地 野津信子ほか 2010.6.8 KPM-NA0164893, 戸塚区俣野町境川遊水地 野津信子ほか 2010.5.11 KPM-NA0164919.

カワヂシャ *Veronica undulata* Wall. 国 準絶滅危惧（NT）

標本：泉区下飯田町境川遊水地 野津信子ほか 2010.6.8 KPM-NA0164899, 戸塚区俣野町境川遊水地 野津信子ほか 2010.5.11 KPM-NA0164918.

○記録された植物数と帰化率

表 1 に示されているように、帰化率は田中（2003）より算出した『神植誌 01』と比較して高い値を示した。特に離弁花類、合弁花類では高い帰化率であった。神奈川県全体でも帰化種の増大が著しいが、今回の調査地は洪水被害を軽減するための遊水地であるため、攪乱による帰化種・逸出種の侵入しやすい環境にあり、河川水による帰化種・逸出種の種子の供給があることなどにより、より高い帰化率を示したと考えられる。

表 1. 県立境川遊水地公園で記録した植物種数および帰化率（『神植誌 01』との比較）.

		全体	在来種	帰化種	逸出種	帰化率 (%)	『神植誌 01』 帰化率 (%)
戸塚区 俣野遊水地	単子葉植物	104	76	26	2	25.5	22.3
	双子葉植物	216	103	104	9	50.2	—
	離弁花類	131	72	55	4	43.3	22.9
	合弁花類	85	31	49	5	61.3	35.6
	合計	320	179	130	9	41.8	25.9
泉区 下飯田遊水地	単子葉植物	107	78	25	4	24.3	23.9
	双子葉植物	261	107	140	14	56.7	—
	離弁花類	156	73	76	7	51.4	25.1
	合弁花類	105	34	64	7	59.3	38.4
	合計	368	185	165	18	47.1	27.8
両所統合	単子葉植物	132	96	32	4	25	—
	双子葉植物	313	135	158	20	53.9	—
	離弁花類	191	93	88	10	48.6	—
	合弁花類	122	42	70	10	62.5	—
	合計	445	231	190	24	45.1	—

※帰化率の算出は逸出種を除いて行った。また、『神植誌 01』の帰化率は田中（2003）をもとに戸塚区と泉区の帰化率を算出した。

おわりに

現在の境川遊水地公園が整備された一帯は、かつて横浜では珍しい豊かな湿地帯で在来種が多く見られたが、公園化工事により、残念ながらその多くが失われてしまったことが確認された。今後も年数回の継続観察を行い、植生が再生されるよう見守りたい。なお、花ごよみ調査の調査リストおよび報告書は県立境川遊水地公園に提出した。

謝辞

花ごよみ調査をはじめににあたっては、神奈川県立生命の星・地球博物館の田中徳久主任学芸員には県藤沢土木事務所への植物相調査および標本用の植物採集の申請許可をお願いし、毎月の調査時の許可申請をしていただいた。また、植物リストの新産種やレッドデータ植物、帰化率などを調べるに際して資料、情報提供、情報処理、指導をしていただいた。長谷川義人先生にはヤナギ類の現地確認および同定確認をしていただいた。県立遊水地公園の本田昌幸氏には調査時に同行いただき、写真の提供をしていただいた。調査会会員の浅野牧子氏、富岡万里子氏には調査に同行していただいた。生命の星・地球博物館の大西亘学芸員には調査に同行していただき、勝山輝男企画普及課長には植物の同定をしていただいた。皆様に感謝いたします。

引用文献

- 神奈川県植物誌調査会編, 2001. 神奈川県植物誌 2001. 1580pp. 神奈川県生命の星・地球博物館, 小田原.
- 勝山輝男・田中徳久・木場英久・神奈川県植物誌調査会, 2006. 維管束植物. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006. pp.37-130. 神奈川県生命の星・地球博物館, 小田原.
- 野津信子・和田良子・佐々木シゲ子・埜村恵美子, 2007. 横浜市都筑区と戸塚区の横浜市新産種およびレッドデータ植物. *Flora Kanagawa*, (65): 803-804.
- 野津信子・佐々木シゲ子・和田良子・埜村恵美子, 2009. 最近確認されえた横浜市内産植物. *Flora Kanagawa*, (68):829-830.
- 佐々木シゲ子・野津信子・埜村恵美子・和田良子, 印刷中. 2009年以降の横浜市内産植物について. *Flora Kanagawa*, (73).
- 田中徳久, 2003. 『神奈川県植物誌 2001』に用いたデータによる市町村および地域メッシュごとの植物数 *Flora Kanagawa*, (55): 684-687.
- 和田良子・埜村恵美子・野津信子・佐々木シゲ子, 2003. 横浜市内でヒロハウラジロヨモギ確認. *Flora Kanagawa*, (56): 705-706.

小原 敬先生の訃報と想い出

(長谷川義人)

小原 敬先生は2010(平成22)年12月8日にご逝去されました。お生まれは1921(大正10)年3月1日で、享年89歳とのことである。先生は茅ヶ崎市文化財保護委員、茅ヶ崎植物会会長、神奈川県植物誌調査会運営委員として長年に亘ってご活躍、ご指導されたが、特に植物研究史がご専門であったので、『神奈川県植物誌1988』と『神奈川県植物誌2001』にて「神奈川県植物研究史」を担当された。ご性格は緻密で些細な史実も忽せにせず、各方面に手紙で質問を重ねて研究史の完成度を磨き上げた。郷土の岩手植物の会会長の井上幸三先生などとの交友もその一例である。井上氏には『一日露植物学界の交流史—マクシモヴィッチと須川長之助』、『須川長之助物語』など多数の著書がある。

小原先生の一生は、その父上が8人兄弟の次男ということもあり、進取のご性格から平凡平和な生活とはかなり乖離したものと拝察される。父：敬介氏はアメリカへ渡り、農業・畜産技術を習得してこの地で就

職し、ここで母：照井みつ氏と結婚され、先生はオーランドでお生まれになった。敬介氏は明治37年3月に岩手県立盛岡農学校を卒業後、アメリカに渡航。果樹、蔬菜の栽培実習の後、明治41年9月にカリフォルニア州パロアルト・ハイスクール入学、明治44年1月カリフォルニア大学農科に入学。大正2年7月休学の上、アメリカ中西部の農業を実地研究し、大正4年ミネソタ州立農科大学に転校して畜産学を専攻し、同6年5月卒業してバチェラー・オブ・サイエンスの学位を授けられた。その後米国西部で関連の業務につき、大正13年10月に一旦帰国。昭和3年に日本の旧保護領である満州国へ渡り、7月25日に満州鉄道入社。付属の熊岳城農業学校校長と農業実習所長を兼務。しかし、この幸福な生活も父上が3年後の昭和6年4月3日に突然亡くなられ長くは続かず終わりを告げたのである。敬介氏も渡米してすぐにその父上：忠次郎氏が死去し、大変なご苦労をされている。

小原 敬先生は、旅順中学校で生物学の小森誠一先生に指導を受け、卒業後満鉄の中央試験所に

就職した。先生のご先祖は城給人であった町奉行所の御物書きであり、忠次郎氏も東籬と号して書家であった。調べ物、記録は家系的な習いであったと思われる。先生は多分脳性小児まひのための身体障害者と拝察しているが、歩行も言葉もややご不自由であったが、僭越ながら大変勉強家で学問好きの頭脳明晰な方であった。後進の私には常に何かと手を差し伸べられ、送られてきた資料・手紙類は厚さ10cmをはるかに超える。最初は『国際植物命名規約』のコピーなどを送ってこられ、そのうちにご自身の別刷などを頂戴した。特に「日露植物交流雑記 I ~ X II」(平和学園年刊)は、3冊のみの所有と知って、セットを送ってこられたし、Stafleu, F.A. and Cowan, R.S. 『Taxonomic literature』の必要部分のコピーを下された。また『小原 敬先生著作集』(神奈川県植物誌調査会, 2007)の編集の際には、『日本の生物』(文一総合出版) 掲載の「外国人による日本植物の研究 I ~ VI」, 「ペリー使節団と日本植物」などのご自身の資料は可能な限り提供された。「日露植物交流雑記」は、科学史研究に燦然と光を放つ著述で、ラックスマン、ラングスドルフ、ツルチャニフ、マクシモウィッチ、コマロフなどに触れて縦横に日露の植物研究の交流を書かれた。「交流雑記 I」を拝見すれば、このテーマに対する先生の熱い胸の内が窺える。先生が引用したロシア語の文献は入手不能のものも多く、筆者も古書店のカatalogなどで1回しか見た事がないものもあり、例えば「交流雑記 V」の Turczaninow, N. 『Flora baicalensi-dahurica』などは確か井上書店のカatalogに 18,000 円が出ており、1000 頁前後の本なので特に高いとは思えなかったが、私は 2 日間躊躇したため入手出来なかった。また引用されている Bretschneider, E. 『History of European botanical discoveries in China』も一旦は購入したが、落丁本であったために書店に返却し、代わりに Franchet et Sav. 『Enumeratio Plantarum Japonicarum I, II』を入手した思い出もある。それにしても先生が勤務された茅ヶ崎の平和学園(多分、キリスト教無教会派)の『年刊平和学園』はこの組版の面倒な論文をよく登載したと思う。

戦後、満州から引き揚げてこられ、のぞみ幼稚園(園長: 春山長蔵)、平和学園(校長: 大塚秀雄)に勤務された経緯は『小原 敬先生著作集』に明らかであるが、実はこの著作集の編集を collaboration した浜口哲一、三輪徳子、長谷川義人の 3 人の取りまとめをした浜口哲一氏も昨年、2010(平成 22)年 5 月 3 日に 62 歳で他界されてしまった。本来は浜口氏にこの追悼の辞を執筆して戴けたと思われるが、

残念な気持ちでならない。今思えばこの著作集では、2006~2007 年にかけて平塚市博物館の館長室で浜口さんを中心に何回も編集会議を重ね、資料集めから始めて本の体裁、執筆者の選定まで忙しい浜口さんを煩わせてしまった。筆者への連絡は三輪さんが担当され、内容の質疑から会合の案内までお世話になった。内容については充分とはいえない部分も少し遺りはしたが、ほぼ著作集としての当初の目的は果たせたと考えている。最近、日本の自然を守る会の石黒滋子代表から頂戴した『会報 二十号記念別冊』に、この会の指導者であった名古屋の井波一雄先生(既に故人)のご依頼で行った小原先生の講演要旨があり、これも収録すればよかったと考えている(1993 年 6 月 22 日講演要旨)。他にもマンセンザクラについての小原先生からのご質問のハガキを何回か頂戴したが、牧野富太郎先生を案内した江崎重吉氏は満鉄(多目的の国策会社)の吉林鉄道局長であったことが小原先生が記述された『茅ヶ崎自然の新聞』の 252 号に載っている。小原先生はこの新聞に自然関連の話題を連載していた。最近の先生は目もお悪くなられて介護者に口述筆記をしてもらい手紙を書かれていたようで、茅ヶ崎植物会の有志の方々が交代で身边のお世話をしていたご様子で、晩年の先生は幸せであったと考えられる。

筆者は、牧野植物同好会会誌 88 号に Franchet, A.N. と Savatier, P.A.L. の略歴と事績を書き、小原 敬先生の紹介文を参考にしたことに触れたが、先生にこれをお送りすることなく発行日の一週間後に他界されてしまったことは返す返すも残念でならない。小原先生はドイツのレムゴーの人で来日して日本植物を研究したエンゲルベルト・ケンペルの父が息子に遺した三つの言葉の中の第一「永遠に生きるかの如く学べ。今日死んでも良いように生きよ」(『ケンペルと徳川綱吉』B・M・ボダルト=ペイリー著、中直一訳; 中公新書)の通りのご生涯であった。

12 月 9 日のお通夜の席には、元勤務先の平和学園から、夏村 充先生(平和学園顧問、元学園長)他の多数の元同僚の方々と神奈川県植物誌調査会から田中徳久、斎木操、三輪徳子、篠田朗彦、斎藤溢子(都合で葬儀出席)、岸しげみほかの諸氏が列席された。先生の屈託のない平時の快活な御顔の写真が飾られて、心の安息を得られた穏やかな永眠であった。これまでの長い温かい交流を思い起こし私はただただ御冥福をお祈りした。この拙い追悼文に小原先生ご寛恕あれ!! 先生の記憶力の確かさと温かいお人柄を忘れることはないでしょう。

[JAN.25, 2011 記]

環境省レッドリスト改訂神奈川県調査について

(勝山輝男)

環境省レッドリストの見直し調査が2010年秋～2011年秋の日程で実施されることになりました。環境省の現レッドリストの調査では対象にならなかった種（主に地方固有種と、最近記載された種）について調査を行います。また、シカの影響で減少が著しく、絶滅の怖れがあるものも再調査します。神奈川県の対象種について、これまでの調査でわかっている産地について、3次メッシュごとに再確認を行い、それを集約して2次メッシュ（2万5千分の1地形図）あたりの株数を算出して報告します。

神奈川県では勝山が主任調査員となり、田中、大西、秋山、大森、田村、酒井、久江、中山、藤井、各氏に調査員として登録していただきました。調査員に登録されていない方でも、『神植誌88』や『神植誌

01』のための調査で対象種の標本を採集された方は、再確認を実施していただければ助かります。再確認の調査を行った場合には以下を報告してください。

種名、3次メッシュコード、成熟株の株数、減少の要因（あれば）、調査日を勝山宛にお知らせください。現地確認調査に行ったが、発見できなかったものは「未発見」として報告してください。今秋に勝山がデータをとりまとめて、2万5千分の1地形図あたりの株数について、10未満、50未満、100未満、1,000未満、10,000未満、絶滅、未発見を報告します。アオホオズキのように神奈川県では産地の多いものも入っています。その場合は全産地を再確認する必要がありますと思いますが、2次メッシュの株数の推定値は出さなければなりません。以前に比べて減少しているかどうか、シカの影響で著しく減少している可能性がないかなど、参考になる情報をお寄せ下さい。

対象種

ヤシャイノデ（報告済）	川県では普通種。シカの直接の影響もないので、「普通種、減少なし」で報告予定）	イズカニコウモリ
チャボイノデ（23年度追加種）	ミシマサイコ	イズハハコ（絶滅）
ハコネシケチシダ（23年度追加種。神奈川県では箱根に多く、増減もないと思われる。現地調査しなくてもよい対象として報告したい）	ムラサキセンブリ	アキノハハコグサ
サンショウモ	フナバラソウ	タカサゴソウ
オオアカウキクサ	スズサイコ	ヤマタバコ
イワアカザ（ミドリアカザ）（23年度追加種）	ムラサキ	オオニガナ（絶滅）
ハコネシロカネソウ（神奈川県では個体数が多く、減少傾向もないので、現地調査は行わずに報告する）	タニジャコウソウ（23年度追加種）	ヒメヒゴタイ
ヒキノカサ（絶滅）	ツルカコソウ	オナモミ
ノカラマツ（絶滅）	マネキグサ	トウゴクヘラオモダカ
ハナハタザオ（絶滅）	キセワタ	イトイバラモ
サナギイチゴ（23年度追加種）	アオホオズキ	ミズタカモジ
イヌハギ（23年度追加種）	ヤマホオズキ	ヒナザサ（23年度追加種。神奈川県絶滅）
マツバニンジン（絶滅）	ゴマクサ（絶滅）	ヒメミクリ
マメグミ（23年度追加種。神奈川県でも同様ですが）、中でも市街地周辺などにもあるメダケ属 <i>Pleioblastus</i> やアズマザサ属 <i>Sasaella</i> などはまだまだ注意を注げば出てくるはずの分布地が潜在しているものと思われま	バアソブ	スジヌマハリイ（絶滅）
	ソナレマツムシソウ（アシタカマツムシソウ）（23年度追加種）	ヤリテンツキ
	キキョウ	キソエビネ
	カワラノギク	ミズトンボ
	ウラギク	ムカゴソウ
	クサヤツデ（23年度追加種）	オオバナオオヤマサギソウ
		タンザワサカネラン（23年度追加種）

ササ類情報募集

(三樹和博)

植物調査の先進県と称えられる神奈川県にあって、ササ類相はやや未調査の部分が残されていて（他

県でも同様ですが）、中でも市街地周辺などにもあるメダケ属 *Pleioblastus* やアズマザサ属 *Sasaella* などはまだまだ注意を注げば出てくるはずの分布地が潜在しているものと思われま

も、このササ類というのは足を止めさせにくい植物のナンバーワンと思われ、その上これらの産地自体にかなりの開発が進んでいて、造成地の片隅に細々と残っているものであったり、自生か植栽かの判断が難しい分布も多いと思われ。しかし、ササ類の開花が稀で、種子による繁殖はほとんどありませんので、現在の分布は他の植物以上にその土地のたどって来た歴史との関係の上に成り立っていると言えます。そこでぜひ皆さんがお住まいのエリアに存在している（かもしれない）ササ類にちょっとだけ目を向けてみて下さい。もしかしたら未確認のものかもしれません。もしか

なりの疑問種でしたらぜひ下記まで情報をお寄せください。必ず（いつの日か）駆けつけます。一通りの植物種をやり終えた皆さんが、ササ類に馴染むきっかけになれば幸いです。ビジュアル情報でも結構です。

またもう一つ、このところ関東各地でアズマネザサ *Pleioblastus chino* (Franch. & Sav.) Makino var. *chino* の開花がまとまって観察されています。県内でも気をつけて見たいと思いますのでかなりまとまった面積の開花を確認されましたら、こちらについても、ぜひ takachan@vega.ocn.ne.jp までお知らせ下さい。

2011 年度総会の報告

(事務局)

2011 年 4 月 23 日 (土)、生命の星・地球博物館講義室において、2011 年度の役員会・総会が開催され、報告・議事とも、了承されました。また、総会終了後には、京都大学の瀬戸口浩彰氏の「サガミジョウロウホトギスの遺伝子多様性と保護に向けた提言」と題した講演をいただきました。

● 2010 年度 事業報告

● 2010 年度 決算報告・監査報告

● 各ブロックの活動報告

● 会則の改訂

● 2011 年度 運営体制

● 2011 年度 事業計画

● 2011 年度 予算

編集後記

浜口哲一さんに続き小原 敬さんがお亡くなりになりました。生前のご指導に感謝し、ご冥福をお祈りします。運営委員の長谷川義人さんに追悼文をお願いしました。ありがとうございました。

さて、「ここまで来たら数年振りの年 3 回発行を目指し…」も敢え無く撃沈。やはり昨年度も 2 号止まりでした。総会の報告にもありますが、しばらく Flora Kanagawa のカラー化を試行します。なるべく大きな写真が入れられるよう、今号から上下左右の余白を少し大きくしました。皆様の力作をお待ちしております。

(田中徳久)

神奈川県植物誌調査会

〒 250-0031 小田原市入生田 499
神奈川県立生命の星・地球博物館内
TEL 0465-21-1515・FAX 0465-23-8846
e-mail kana-syoku@nh.kanagawa-museum.jp
郵便振替 00230-5-10195
加入者名 神奈川県植物誌調査会
年会費 2,000 円